

令和2年度 市野与進こども園 事業計画

保育業界では今、保育教諭の確保が最大の課題です。当園では令和元年度、保育教諭4名が退職予定のため5人の募集をしたところ、中途採用者2名・新規学卒者1名・経験者2名の採用となりました。

昨年4月に購入した隣地の駐車場工事及び園庭工事が1月末で終了し、令和2年度は緑化・植樹を行います。

昨年度、園内で発生した子どもの事故（ケガ）の要因のひとつとして、「運動機能の低さ」や「発達に合わせた環境作り」の不足といった反省点があがりました。そのことをふまえ、現在の園庭を低年齢の子どもたちでも安全に使用でき、尚且つ運動機能を促す為に「芝生化」すること、そして老朽化遊具の廃止・見直しをかねた発達を促す遊具作り「築山づくり」を計画しています。芝生については、グリーンバンクの協力もと、保護者・職員と共にどのような形で行っていくのかしっかりと計画を練りながら進めていきたいと思っております。一方新しい園庭は、高年齢児が十分体を動かす遊び（活動）が充実出来ることを目的とし、活動内容に合わせて低年齢児も同様使用していきます。

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計
募集人数 (1号)				1人	3人	3人	7人
募集人数 (2.3号)	7人	4人	1人	0人	0人	0人	12人
令和2年度 在園児数 (4/1 現在)	16人	28人	29人	33人 (1号3人)	31人	34人 (1号4人)	171人

※新入園児数 27人

<本年度のテーマ> 「子どもの心育ちを大切に」「子どもの発達に沿った環境作り」

<重点目標及び施策>

- ① 「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す。
- ② 働き方改革の継続。働きやすい職場環境づくり。(人材確保と人材育成)
- ③ 親支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援の実施。(地域貢献)

① 「教育・保育」「保育教諭」の質の向上

(ア) 教育・保育の質の向上 (保育テーマ：子どもの発達に沿った環境作り)

- ・「研究保育」「勉強会」「園内研修」を通じた質の向上
- ・給食内容の向上 (給食テーマ：美味しい給食(献立)作り)
- ・保育に繋げる「自己評価」の実施

(イ) 保育中の安全管理体制づくり

- ・発達に沿った環境作り
- ・「ヒヤリハット」を活かしたクラス経営

(ウ) 家庭を巻き込んだ食育実践

(食育テーマ：「家庭と一緒に楽しくマナーを身に付けよう」「元気な体が分かる子」)

② 働き方改革の継続（働きやすい職場環境づくり）

（ア）子育てしやすい職場作り

（イ）業務の効率化（効率よく仕事を進め、残業削減の工夫）

- ・各書類（書式）の見直し
- ・休憩時間の充実

③ 保護者支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援（地域貢献）

（ア）保育参加の実施

（イ）「親子ふれあい遊び」の継続

（ウ）保護者との1分間コミュニケーション

（エ）子どもの成長が感じられる「保育の見える化」（懇談会 行事 HP おたより 掲示板 等）

（オ）地域を支援するための学童保育

（ア）「ふれあい遊び」の継続

（イ）ベビーマッサージ教室・マタニティーカフェ・離乳室教室（講座）・給食試食会の実施

（ウ）在園児との交流会

（エ）保育参加や様々な行事への参加

法人の基本方針	概 要	内 容
1. 保育サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●認定こども園教育・保育要領に沿った保育の実践 ●国・市の方針等の環境変化に応じた国の経営 ●行政に向けたタイムリーな情報発信 ●保育環境の整備 	<p>【こども園のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな体験を通し何にでも挑戦する子ども ○人と関わる中で素直で優しい心を持つ子ども <p>【大切にしている育ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人との関わり ○自分の思いを言葉にする ○集団生活や遊びのルールを守る ○相手を思う気持ちを育てる ○基本的生活習慣の確立 <p>【重点目標 ①】</p> <p>「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育・保育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭は常に子どもと一緒に遊びこむ。 (遊びが学び) ・大人主導の「させる」保育から、子ども自らが「やってみよう」と思える環境作り。 (子どもファーストの保育) ・「研究保育」の継続→管理者以外の職員も評価へ参加する。 (評価側にまわることで自身の保育への見直しに繋がる) ・キャリアアップ研修の内容を保育にどう結びつけていくか。保育の向上に活かせるような体制作り。 (R.2年度の課題) <p>→研修参加職員は報告のみではなく、内容をどう保育に繋げていくかを皆で考えていく。 R.2年度は「保育記録の書式の見直しから始める」 (乳児・幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勉強会」の継続(乳児・幼児) <p>→「エピソード記録」や「保育ドキュメンテーション」を活用しながら、職員自身が子ども一人ひとりの育ちを読みとる力を育てる。 (写真から読み取る子どもの育ち)</p> <p>※「保育ドキュメンテーション」とは、日頃の保育の中で子ども達が遊びや生活を通じて「どのように育っているのか」「何を学んでいるのか」を保護者に伝えることを意図として作成されたもの。ドキュメンテーションを作成する過程で子どもの対する「観察力」が高まり、記録を見ながら実践を振り返ることでどのようにすべきかを保育教諭自身が考えられるようになる。</p>

★職員一人ひとりが…

「子どもの育ちを読みとる力」がつけば



「記録を書く力」となり



「子どもに沿った環境作り」「書類の簡素化」へと繋がり



保育（保育教諭）の質の向上へと繋がっていく

・園内研修テーマ：「子どもの発達に沿った環境作り」

・給食の質の向上

給食テーマ：「美味しい給食（献立）作り」

①給食会議の在り方を見直す。

→量や食べ具合の話ではなく、「美味しい献立」にするにはどうしたらよいかの話し合い。

②園児との関わりを増やすための取り組み。

→「出前調理」の実施。

子どもたちがクッキングをする際、給食職員も参加する。またクッキングの内容も、給食室の専門性を活かした内容や方法とする。

・保育に繋がる自己評価の実施

→「他者評価」を取り入れたことで、自分自身の保育の振り返りにも繋がる。

○保育中の安全管理体制づくり

・子どもの発達に沿った環境作り。

※今までの環境作りは、室内装飾や子どもが主体的に遊ぶ為のものを中心として考えていたが、今私たちがすべきことは重大事故発生要因の一つである「運動機能を高める」ための環境作りが最優先である。

・「事故報告」「ヒヤリハット」を通じて、子どもの育ち・職員自身の行動を分析。（発達過程の周知）

→「ヒヤリハット」はあくまでも子ども一人ひとりの育ちを見る・確認する為である。

・危機管理マニュアルの周知と実施訓練。（職員研修）

→防犯訓練（警察署）・救急法（消防署）

・保育環境の充実…現園庭の芝生化・遊具の見直し

（計画）

	<p>●環境を守る取り組み</p> <p>●保護者への積極的な子育て支援</p>	<p>○節電対策（強化・工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの省力化 ・「自分のポケットにハンカチを」運動 →職員・3歳以上児 ・水の出しっぱなし（漏水）電気の付けっぱなしを常に確認する ・家庭での空き缶回収 <p>○保護者支援の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参加の実施 ・「親子ふれあい遊び」の継続 ・日々の保護者との「1分間コミュニケーション」 ・子どもの成長が感じられる「保育の見える化」の工夫（懇談会・行事・HP・クラスだより・園内掲示板 等） <p>○家庭を巻き込んだ食育実践（食育計画に沿った実践）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育テーマ 「家庭と一緒に楽しくマナーを身に付けよう」 「元気な体分かる子」 ～健康のバロメーター「うんち」の取り組み～
<p>2. 職員の確保・育成</p>	<p>●職員が働きやすい環境作り、待遇の改善</p> <p>●採用関係等対外的にタイムリーな情報発信</p>	<p>【重点目標 ②】 働き方改革の継続。働きやすい職場環境づくり。 (人材確保と育成)</p> <p>○子育てしやすい職場環境作り</p> <p>○業務の効率化を図る（職員一人ひとりの意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各書類（書式）の見直し ・保育補助の有効活用 →クラスの枠を外し園全体で活用していくことで、園全体の効率化と残業削減へと繋がる。 ・休憩時間の充実（45分実現化に向けて） <p>① 各クラスの流れ、休憩開始時間を再確認。</p> <p>② 各会議や話し合いを把握する為に、スケジュール化する。（全体・クラス・係・担当）</p> <p>③ 休憩会議を設け、45分にするにはどんな工夫や問題点が生じるかを話し合う。（実現可能かどうか）</p> <p>★休憩時間を再検討するには、職員一人ひとりの「意識改革」が最も必要とされる。</p> <p>人材確保</p> <p>○就職希望者に向けた「教育・保育」内容が見える園作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同就職説明会の有効活用 ・実習生の積極的受入れ ・内容が伝わるHPづくり

	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的な研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・採用者に分かりやすい求人情報の提供 ・フリーツアー（オープン保育）、園見学の実施 ・行事ボランティアの募集 <p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「選ばれるこども園」をめざした人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価（自己分析）の実施 ・計画的なキャリアアップ研修 ・「研究保育」「勉強会」の実施。 ・「園内研修」「食育研修」の充実 ・職員間での情報共有
<p>3. 地域への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「地域における公益的な取組」を含む地域の貢献活動の充実 ●地域に対するタイムリーな情報発信 	<p>【重点目標 ③】 保護者支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援の実施。（地域貢献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域を支援するため「学童保育」の実現化を検討。 (今後の課題) →保護者や地域、職員からの強い要望を受け、学童保育の実現に向けた計画の策定。 ○子育て支援（親子ひろば）の充実化 <ul style="list-style-type: none"> ・「ベビーマッサージ」「マタニティーカフェ」の実施 →助産師への育児相談 ・「親子ふれあい遊び」の充実化（1～2歳対象） ・保育参加（体験）への呼びかけ →園の様子を見たり共に体験することで、「子育て」や「入園」の参考にしてもらう。 ・「離乳食教室（講座）」の実施 ・手作り給食（離乳食）の試食会 ○地域交流の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・「いかまい会」への参加 ※「いかまい会」とは、地域の老人会主催の集い ・地域ボランティアの活用（食育・コーラス 等） ・地域防災への職員参加 ・近隣の「幼稚園・こども園・小学校」との継続的交流
<p>4. 法人、事業基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●経営の把握と無駄の排除 ●生産性の向上のために積極的にICTを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★予算は現状を想定しながらバランスよく考え立案をし、健全なこども園運営を行う ★事前調査をしっかりと行い、計画的に予算を編成する ★職員、責任者には運営状況を丁寧に説明する ★区の情報を確認しながら、環境の変化に対応 ★園長会、近隣園との情報交換及び情報共有

3歳未満児は月齢でクラス編成（4月1日現在）

クラス名	こもも組	もも組	みかん組	れもん組	あか組	あお組	しろ組	合計
歳児別 園児	0歳児-16 1歳児-5	1歳児-15	1歳児-8 2歳児-12	2歳児-17	3歳児-33	4歳児-31	5歳児-34	171
組人数	21	15	20	17	33 1号認定3	31 障害A	34 1号認定4	171
職員数	7	3	4	3	3	3	3	26

※特別障害児 4歳児に1名

職員数

園長	教頭	主幹 保育教諭	副主幹 保育教諭	保育 教諭	保育 補助	栄養士	調理員	事務員	用務員	育児 休業	合計
1	1	2		26	4	3	2	1	1	2	43

（4月1日現在）